

## 卒業おめでとう！！



卒業おめでとう！！晴れて今日の佳き日を迎えられたみなさんの胸中には、在学中のさまざまな思い出が去来していることでしょうか。しかし、入学当初から昨年の5月上旬までは新型コロナウイルスによる制限のある生活を強いられましたので、そのイメージが強いのかもかもしれません。

みなさんとは、1年生のときに授業で関わることはなく、2年生以降、特進コースの「政治・経済」と「倫理」、特進コースと進学コース3年生の「公民演習」で関わってきました。特に2年生の後半からは、(進路指導室に近いからということもあったかと思いますが)体育コースを中心に進路指導室に来室する生徒が増え、いろいろと相談に乗ってきました。例年のことではありますが、1学期から11月頃までは昼休みや放課後、多くの3年生諸君が進路指導室を利用しました。進学、就職を問わず、真剣に活動に取り組んでいたそれぞれの姿が印象に残っています。

ところで、明治大学教授の齋藤孝さんは、『『人類の教師』という意味で教師らしい教師の一人』として孔子を挙げています(『人はなぜ学ばなければならないのか』じっぴコンパクト新書による)。本校の建学の精神は、「孔子の教え」に基づいています。その教えをまとめた『修為要領十七条』については、新型コロナウイルス感染拡大防止のため、1・2年生のときには学年集会で唱和する機会がなかったかと思いますが、3年生になってからは週1回、体育館で通常どおり実施できるようになりました。本校に関係する多くの方が、「今は分からなくとも、将来、役立つ内容であり、きっと学んでおいて良かったと思う日が来る」と話されていますが、筆者もそのように感じています。ぜひ、本棚でも机の引き出しでも構いませんので、『修為要領十七条』を手元に置いて悩みがあったときにでも目を通していただければ幸いです。

ちなみに、先の齋藤さんによれば、「孔子の考える『学び』は常に人格とセットであり、孔子はさらに体現していることまで求める」(前掲書)と述べています。孔子の死後、孔子ら(孔子の高弟を含む)の言行を弟子たちが記録したとされる『論語』の中から、筆者は特に「子曰く、君子は諸(これ)を己に求め、小人は諸を人に求む」を紹介しておきたいと思います。これは、「(例えば、何か困難なことに陥ったときに)小人は何事も他人のせいにするが、君子は他人のせいにするのではない」ということを意味しています。今後、もし困難なことに陥ったりした場合に、すぐに他人のせいにしたり言い訳をしたりするのではなく、まずは自分の足元をしっかりと見つめるところから始められる人間であってほしいと思っています。これは子ども(高校生)だけでなく、大人の側も忘れてはいけないことだと筆者も肝に銘じて生活しています。

これからの長い道程の中で、直接的に参考になるかどうかは分かりませんが、「人生」という観点から、筆者が大学時代に読んだ本の中で印象に残っているものを2つ紹介します。まずは、『冬の鷹』(吉村昭・新潮文庫)です。これはオランダ語の『ターヘル・アナトミア』を日本語に訳し、『解体新書』を完成させた前野良沢の貧窮の中、孤高を貫いた生涯と流行医への道を歩んだ杉田玄白の相克が描かれています。もう1つ、『銃口(上・下巻)』(三浦綾子・小学館文庫)は、教師になった青年が理想の教育と軍国主義のはざまに悩むストーリーです。片や江戸時代、もう一方も昭和の初期ということで、現代とは時代背景がだいぶ異なりますが、いずれもこれからの長い人生を歩んでいくうえで、参考にしてほしい作品です。やや難しく感じたり、現代とは時代背景が異なることから読んでいてもなかなか理解できなかつたりする部分があるかもしれませんが、今すぐにはなくても、今後の人生のどこかで理解してもらえればうれしく思います。吉村昭も三浦綾子も長編の小説が多い作家です。読み応えのある作品が多く、他にも薦めたいものがたくさんあります。みなさんも1冊でも良いですから、いずれ彼らの何らかの長編小説を読破してほしいと思います。

最後になりますが、進路決定に当たっては、進学希望から就職希望に変更になったり、県外企業から内定を得ていたものの、一人暮らしに不安があるとの理由で辞退したり・・・と、今年度もさまざまなことがありました。進学、就職を問わず、18歳で進路(自分のやりたいこと)を決定させなければならないというのは難しい部分もあるのかもかもしれません。高校卒業後もどのような選択をしたら良いのか迫られる場面が多く出てくるかと思っています。悩み事があったら、ぜひ相談に来てください。先生方はいつでもみなさんのことを応援しています。

文責：清水聖(進路指導主事)